

第25回全建女 G分科会（高齢社会と福祉住宅）に参加して

下川 滝美

今年は25年の節目の年ということで、一日目は初代連合会女性委員長の村上氏の全建女立ち上げの講演会を聞きました。

講演会の中で最初からの継続テーマであるのが高齢化問題だといわれました。私が全建女に参加させていただいたのが第15回からだだったと思います。

わけもわからずに当時委員長だった河内さんについて行ったことが思い出されます。

全国にこんなにたくさんの女性建築士がいて、私の仕事としている高齢者の問題について全国の方との交流や情報交換ができる分科会があるなんて・・・と当時はとても感激をしました。

以来全建女ではこのG分科会に参加することにしています。

今回は滋賀県で両親と建築事務所を営んでいる方の事例でした。

家族みんなが建築士である中でお父様がくも膜下出血で倒れられ、車いすの生活になったのですが在宅に戻れるにあたり医療・福祉分野の専門職と連携をとり住宅をリフォームされて家族と一緒に過ごしておられるという事例でした。

家族全員が建築士であることで計画が遂行しやすかったことや、思いやりのある温かい家庭で、お父様のことをとても大切にしている様子が伝わってきました。

その後の意見交換では各県の助成の情報や他職種の連携について話し合いが行われました。

岐阜県では私の勤務している岐阜県福祉総合相談センターが、住宅改修の相談窓口になっていることや研修体制もできていることを紹介してもらいました。他県には研修がないということでケアマネの皆さんの住宅改修に関する研修も少ないということでした。

めぐまれた環境の中にある岐阜県の体制をありがたく思い今後も業務に携わっている方々に利用してもらい資質の向上をめざしていきたいと思いました。

